

活性化をもたらすコミュニティのネットワーク —岐阜市中心市街地の商店街を対象として—

岐阜大学 学生会員 ○堀口拓治
岐阜大学 正会員 出村嘉史

1. はじめに

Putnam¹⁾は、ソーシャルキャピタル (以下、SC) を人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を改善でき、信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴であると定義している。また、SC は人々の間における積極的な繋がりによって蓄積され、結果的に効率的な社会的帰結をもたらすことを指摘している。本研究では、活力のあるまちの中心人物への周辺に形成されてきた人とコミュニティの関係を明らかにし、通時的に変化してきた良好な関係に着目し、そこで起きている現象を把握することを目的とする。そのために中心人物へのヒアリング調査を実施し、通時的な繋がりをネットワークで表し、社会ネットワーク分析 (以下、SNA) によりコミュニティの状態を可視化した。

2. 対象地区の概要

岐阜市の美殿町商店街は、古くから続く中心市街地の商店街の一つである。かつては、商店主らが組合を立ち上げ、商店街の夏祭りなど独自のイベントを企画・開催し活気を維持していた。近年の美殿町では、空きビルに若手クリエイターなどが入居し新規コミュニティが形成され、既存店主らとの新しい取り組みが行われている。

本研究では、美殿町商店街組合の現理事長であり、過去 30 年のまちの動きを把握し近年の取り組みにおける中心人物の S さんを対象人物とする。

3. 研究手法及び手順

本研究では、SNA における表現モデルとして Affiliation Network (2-mode グラフ) を主として用いる。これは、個人と団体の相互依存的な関係をモデル化するものであり、モデルを通して、まちの発展に重要な個人あるいは

コミュニティが持つ特徴の把握を試みる。可視化には計量的かつ視覚的にネットワーク分析が可能なソフトウェア UCINET と NetDraw を用いる。

S さんへのヒアリングから把握した人のつながりに関する情報は、実際に起こった出来事に関する主観的な見方ではあるが、中心人物の認識している主要な人的つながりへと必然的に焦点が絞られている情報であり、かつ、主観的であるが故にその事象における心境の変化などとリンクして把握することが可能である。従って、まちの運営における中心から見た構成を的確に把握することには優れたサンプリングであると考えられる。ただし、まち全体として何が起きているのかを記述するには、情報が不足しており、その場合は見出されている各人物に対する同様の調査による追加情報が必要である。

S さんから得た情報を基に把握した人の繋がりを、SNA の手法を用いて明確にする。研究手順を以下に示す。

- 1) S さんにヒアリングを実施し、得られた事象を時系列で整理しフェーズ分類表 (表-1) を作成する。
- 2) フェーズ分類を基にその時関係していた人物や所属をヒアリングし、各フェーズにおけるソシオマトリクスを作成する。
- 3) NetDraw を用いて上記ソシオマトリクスをネットワーク図に表し、構造の把握・分析する。

表-1 S さんから見た美殿町のフェーズ分類

年代区分	主な出来事
1. 1980 年代～2000 年	組合内での意見対立
2. 2000 年～2004 年	初めて外部コミュニティと繋がる
3. 2004 年～2011 年	コミュニティ「岐阜スタイル」との繋がり
4. 2011 年～2015 年	まちでつくるビルの完成
5. 2015 年～	美殿町ラボの完成

4. SNA から繋がりの特徴を把握

ヒアリングを基に作成した人—コミュニティの関係を示す行列（ソシオマトリクス）を用いて、ネットワークの可視化を行う。以下に示す2つの視点により、SNAを用いて考察を行う。

(1) 外部コミュニティとの関係

人との繋がりを豊かにする上で、どのようなコミュニティと繋がるのが有益なのかに着目する。SCの概念の一つに、異なるコミュニティ同士との繋がりや情報のやりとりにおけるBurtの「構造的空隙」論がある。Burt²⁾は、構造的空隙を冗長でない複数の情報源の間を分断する形で存在すると定義し、1)空隙に紐帯を渡す人は、多様な集団から多様な便益の入手ができ、2)自ら所属する集団の発展には、空隙を介した繋がりと情報を共有できるコミュニティ内部の密な繋がりが重要である点を指摘している。まちの発展には構造的空隙が関連している考えのもと、まずは各フェーズにおける、まち内外の個人の繋がりが示す関係を分析する。分析には、作成した2-modeグラフから個人間の紐帯の強さを示した1-modeグラフへの変換によって行う。

結果、全てのフェーズで、複数の人が複数のコミュニティに所属することで生じる密な繋がりが見られる一方で、第3期では、密な繋がりを持つ2つの集団と集団間を繋ぐ疎な繋がりとの関係が他より顕著に見られた。この点から、Sさんは集団間にある構造的空隙（図-1 赤枠）を利用し他の集団との繋がりを持っていたことが考えられる。

さらに、第3期で2つの集団を繋ぐノードの存在を、2-modeグラフのブロックモデリングから把握する。結果、各々の集団に属する人とコミュニティが識別でき、かつ美殿町に隣接する柳ヶ瀬地区に存在した一つのコミュニティが、構造的空隙に位置して、2つの集団を繋ぐ役割を担っていたことが確認できる（図-2 赤枠）。以上から、第3期は他と比べて特徴的であることが考えられる。

(2) まちの発展に影響を与えるノードの存在

各フェーズにおける繋がり構造において、まちの発展に影響を与えるノード（人あるいはコミュニティ）が存在する点に着目する。ここでは、Sさんが持つネットワーク度数の変化など、度数に着目した分析を行う。同時に、各フェーズのAffiliation Networkにおいて、ネットワークの度数が高いコミュニティノードを中央部に移動させる配置転換も行う。これにより、まちの基盤になる

（ネットワーク度数が高い）コミュニティと分散しているコミュニティとの関係が視覚的に把握できる。

各フェーズにおけるSさんの繋がりを見ると、1つのコミュニティのみに所属する繋がりから、様々なコミュニティに所属する繋がりへと変化（Sさんが持つネットワーク度数が増加）した点、そして第3期の岐阜スタイル（図-3 赤枠）への所属がきっかけで、第4期以降の新たな繋がりを創出していた点が確認できる。以上から、1)第3期に美殿町と柳ヶ瀬をつないだ一つのコミュニティが、後のまちの発展に影響を与えており、2)様々なコミュニティに所属する人の存在が、別の新たな繋がりを創出しまちの発展につながる可能性が高いことが見出された。

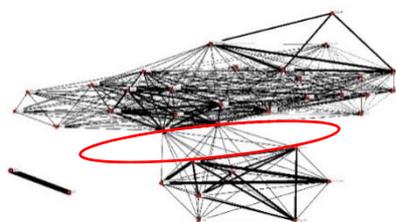


図-1 第3期の1-mode グラフ



図-2 第3期のブロックモデリング

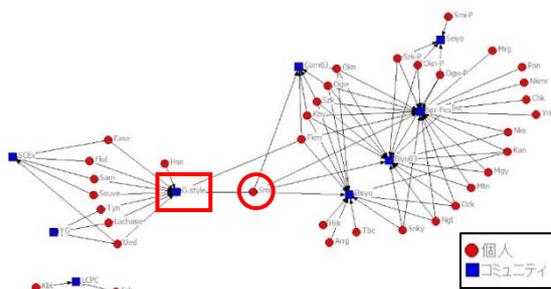


図-3 第3期のネットワーク図（赤丸：Sさん）

5. おわりに

今回は、Sさんが構造的空隙を利用した他の集団との繋がりがあった点と、様々なコミュニティに所属する繋がりがまちの発展につながる可能性が高いことが確認できた。今後は、確認できた2つの事項を基に、まちの発展につながるネットワーク構造を明らかにする。

参考文献

- 1) ロバート・D・パットナム (1993, 河田潤一訳 2001) 『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』NTT出版
- 2) Burt, Ronald S. 2000. The network structure of social capital Pp. 345-423 in Research in organizational Behavior